


 巻頭 photo **高尾山の生きものたち**

モンキアゲハ(アゲハチョウ科)

これはモンキアゲハ2頭(チョウの数え方)が飛翔しているところですが、この2頭は何となく「格好よく写してね!」「早く撮れよ!」とカメラを意識しているような感じがするのですが?

カメラの前面を何度も行ったり来たりで撮影に協力? それだけに良いカットが撮れました。

ついでに、名前は紋黄揚羽ですが、この紋が筆者には白に見えるので「紋白揚羽(モンシロアゲハ)」の名前が妥当と思うのですが、読者諸賢はいかがですか。

(写真・文 大作栄一郎氏)



ツルニンジン

いろはの森

事務所の横に、隣の家の田んぼがある。この田んぼに毎日カルガモの夫婦が来ていて、田んぼの中を泳ぎながら水草などを食べている。有機栽培農法ではないらしく、カルガモは野生のようだ。いつも仲良く寄り添っていて、うらやましい限り。

ところで、人から見ると鳥の姿はどれも同じに見えるが、彼らにはどこかしら区別できる部分があって、相手がわかるのだろう。どうも鳴き声とか臭いではないような気がする。良く観察していればわかるのだろうか。

さて、植物にもよく似たものがある。細かく観察しないと区別ができない。春先に森林教室で歩いた歩道の脇にフタリシズカが咲いていた。花茎が2本あるものはフタリシズカ、1本のはヒトリシズカだと思っていたら、大きな間違い。フタリシズカでも花茎が1本のものや3本のものがあるそうで、よく見ればヒトリシズカとは花の形が全く違うそうである。人の目線で見るとは、植物や動物の目線で見ることが大切ということですね。(S)



(フタリシズカ)



高尾森林ふれあい推進センターは、皆さんが高尾山の自然に親しみ、森林や林業に理解を深めるための諸活動を行っています。

なぜ、高尾山付近で ケヤキの葉が枯れている？

7月下旬ごろから、高尾山の南西側になる八王子市南浅川町の国道20号線沿いのケヤキの葉が薄くなり、一部が落葉しているのに気づいた人もいでしょう。遠目では、単に台風等の強風や豪雨で葉が落ちていたと思われました。しかし、同様のケヤキは、夏の終わりが近づくこのごろ、国道20号線沿いのみならず、大平国有林一体にまでまん延し、樹冠全体が真っ赤になり落葉しています。

なぜ、ケヤキの葉が枯れているのか調べてみると、秋の「黄葉」の時期以外に害虫による食害、水不足で自身が身を守るためや、種子が豊作のときに子孫を残すために葉を枯らし落葉するとされています。そこで、さらに葉を凝視して見ると、葉を食害している体長2～3ミリの褐色の小さな虫「アカアシノミゾウムシ」を発見。落葉の原因が食害であることがわかりました。

「アカアシノミゾウムシ」は、秋までケヤキの葉を網の目状に食害するため、季節外れに汚い「黄葉」となり、落葉し、葉がなくなりますが、ケヤキは、この虫に対して非常に強く、この被害が数年続いても枯れることはないといわれています。特に防除の必要性もないとされていますので、しばらくは季節外れの汚い「黄葉」ですが、1箇月もすれば新しい葉が展開しますので心配いらないようです。



子ども 霞ヶ関デー



毎年各府省庁等は、省内見学などを行うことにより親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会等とするため、子ども霞ヶ関デーを開催しています。

当センターは、林野庁のスタッフとして8月6日・7日の2日間、農林水産省講堂で木製キーホルダー作りのブースで汗を流しました。大盛況のため、整理券定員800名に限定し、大勢の子どもたちでにぎわいました。

なお、キーホルダーの材料は、毎年当センター解説員の松木さんが1000個準備しています。子どもたちの笑顔を見るに付け、松木さんのご苦勞に感謝です。



木工体験

民間学童保育 わんぱくクラブ

朝から気温がぐんぐん上がった8/5(火)、相模原市の民間学童保育わんぱくクラブの子どもたち20名が、高尾森林ふれあい推進センターの木工体験室へやってきました。小1から小6まで幅広い年齢層の子どもたちは、輪切りに思い思いの絵を描き、ひもを付けたキーホルダーを完成させました。

カラーペンで絵を描いた後、ドングリなどの木の実をボンドでつける子や、ケーキのデコレーションのように盛りつける子など、子どもたちのそれぞれの個性と豊かな想像力が垣間見え、充実した時間となりました。



林業体験

東京大学 環境三四郎

8月11日、東京大学・環境サークル「環境三四郎」(教授からの依頼)のメンバー4名が当センターを訪れ、間伐作業、搬出作業や丸太切りを体験しました。

環境三四郎は、環境問題の解決を目指して活動する東京大学の学生・卒業生を中心とする団体の駒場キャンパスを中心に活動している1・2年生で、一次産業振興プロジェクト(通称「一プロ」)のメンバーです。

一プロは、農業を中心とした一次産業と環境問題とを学ぶためのイベントを企画することを主な活動とし、平成27年3月に高校生を募り、森林・林業について学ぶ林業体験を企画することとしています。

当センターは、この活動の技術支援等を行うこととしています。

丸
太
切
り



間
伐
体
験



職場体験

私立 穎明館中学校

8月19・20日の両日、私立穎明館中3年の高木さんが中学校課程を卒業するに当たり、卒業論文を作成するため、当センターを訪れ、職場体験をされました。高木さんは、小学校時代に当センターの森林教室で間伐や森林観察等を体験した経験から、さらに森林・林業について体験したいと訪れたものです。

1日目は森林・林業に関してパソコンで自主学習の後、大平国有林で森林の蓄積調査、森林観察や歩道標識の整備、2日目はボランティア研修会の聴講、防火線で下刈作業、間伐作業等を体験されました。

高木さんは、具体的な将来の夢はまだ持っていないが、人の役に立つ人になりたいとのこと。是非、夢がかなうといいですね。

下
刈
体
験



間
伐
体
験



NEW

information 参加者募集中!

静かな秋色の北高尾 爽やか健康ハイキング



【山の日制定記念】秋色に染まった北高尾を、心地よい風に吹かれながらハイキングしませんか。

- と き** 平成26年10月22日(水)
- 集 合** JR 高尾駅北口改札前 8:00
- 解 散** 八王子城址管理棟前 15:00頃
- 行 程** 高尾駅～大久保バス停～聖パウロ学園の森～滝ノ沢林道～板当峠～高ドッケ～杉沢の頭(昼食)～八王子城址
(歩行約10km、6時間。中級者向け)
- 実 施** 森林インストラクター東京会(森林ふれあい推進事業協定イベント)
- 募集人員** 30名(応募者多数の場合は抽選)
- 参加費** 一人1,700円(別途バス代は自己負担)
- 持ち物** 弁当、飲み物、帽子、雨具、防寒具、ザック、保険証、常備薬、山歩きに適した服装、軽登山靴など。
- 備 考** 荒天中止(前日に電話連絡します)

【申込方法】

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢・性別④電話番号(中止などの緊急連絡用)⑤電子メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったか。返信面には、お申込者の宛名をご記入のうえ、高尾森林ふれあい推進センター「静かな秋色の北高尾爽やか健康ハイキング」係までお申し込みください。

★申込×切 平成26年10月8日(水)必着



編集後記

都心の公園周辺から、蚊が媒介するデング熱が発生しました。大規模な公園は樹木がうっそうと茂り、水場がそここにあり、蚊が繁殖するには絶好の場所と言えます。虫除けや肌を出さない格好をして、11月頃までなんとか乗り切るしかないようです。(ま)

Forest通信 H26.9.1.No.307 4

NEW

information 参加者募集中!

ハイキングと植物観察教室



高尾山に生息する動植物を観察しながら歩きます。火起こしに挑戦したり 竹とんぼや草笛体験も行います。

- と き** 平成26年11月2日(日)
- 集 合** JR 高尾駅北口 8:20
- 解 散** 日影沢キャンプ場前 15:30
- 実 施** 森とでんえん倶楽部(森林ふれあい推進事業協定イベント)
- 募集人員** 小学生と保護者30名
(応募者多数の場合は抽選。小学生未満の参加はご遠慮ください)
- 参加費** 小学生500円、大人1,000円/人
(保険料、材料費など含む)
- 備 考** 雨天中止の可能性あり

【申込方法】

申込方法等詳細は、「特定非営利活動法人 森とでんえん倶楽部HP」または高尾森林ふれあい推進センターHP内の「平成26年度森林ふれあい推進事業(協定イベント)のご案内」をご覧ください。

(特定非営利活動法人 森とでんえん倶楽部)

〒169-0075 新宿区高田馬場4-21-3-203

Email : moritodenen@live.jp

TEL : 03-3366-1233

FAX : 03-5338-9692

★申込×切 平成26年10月3日(金)必着

Forest通信 No.307

発行:高尾森林ふれあい推進センター

Forest通信へのご意見・ご要望・イベントの

お申込み・お問合わせ先

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

